

教科 科目	国語 現代の国語（現代文・評論）	学年	4年	単位	2単位	担当	恒住 典子
<b>【科目の概要】</b> 近代以降の評論を学習していくなかで、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、論理的思考力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てていくことを目的とします。							
<b>【育成をめざす学力】</b> ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 語彙・文法に関する基礎的な力と、それをふまえた比喻や象徴表現を理解する力 ③ 多様なテーマの評論を、論理的に読解する力 ④ テキストの内容を自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 出題形式に応じて解答できる力（問いと答えの照応力）							
<b>【評価基準・評価項目】</b> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についている。 ・必要に応じて、事前に予習を行うことができる。・必要な語彙が身についている。・文章構成・展開を理解することができる。・筆者の主張を捉えることができる。・設問に過不足なく答えることができる。							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	「本当の自分」幻想						
5月	水の東西						
6月	ものことば						
7月	無彩の色						
8月	【対比】「間」の感覚（高階秀爾）・【具体と抽象】日本語は世界をこのように捉える						
9月	「文化」としての科学						
10月	現代の「世論操作」						
11月	フェアな競争						
12月	【事実と意見】「私作り」とプライバシー・【推論】AIは哲学できるか						
1月	不均等な時間						
2月	ロビンソンの人間と自然						
3月	【主張と根拠】デザインの本意・【主張と反論】「動機の語彙論」という視点						

教科 科目	国語 言語文化(現代文・小説、詩歌)	学年	4年	単位	1単位	担当	恒住 典子
<b>【科目の概要】</b>							
<p>近代以降の小説・詩歌を学習していくなかで、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、効果的に表現する力を高めるとともに、論理的思考力や想像力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てていくことを目的とします。</p>							
<b>【育成をめざす学力】</b>							
<p>① 自学(予習・復習など)できる力</p> <p>② 語彙・文法に関する基礎的な力と、それをふまえた比喻や象徴表現を理解する力</p> <p>③ 多様なテーマの評論を、論理的に読解する力</p> <p>④ テキストの内容を自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力</p> <p>出題形式に応じて解答できる力(問いと答えの照応力)</p>							
<b>【評価基準・評価項目】</b>							
<p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができている。</p> <p>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができている。</p> <p>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度が身についている。</p> <p>・必要に応じて、事前に予習を行うことができる。</p> <p>・必要な語彙が身についている。</p> <p>・文章構成・展開を理解することができる。</p> <p>・設問に過不足なく答えることができる。</p> <p>・登場人物の心情や、その心情を背景(コンテキスト)の中で読み取ることができる。</p>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	羅生門						
5月	羅生門						
6月	砂に埋もれたル・コルビュジエ						
7月	一つのメルヘン・自分の感受性くらい						
8月	I was born						
9月	夢十夜						
10月	夢十夜						
11月	鏡						
12月	鏡						
1月	城の崎にて						
2月	城の崎にて						
3月	その子二十						

教科 科目	国語 言語文化（古文）	学年	4年	単位	1単位	担当	恒住 典子
<b>【科目の概要】</b> 「言語文化」の中の古文の基礎を学んでいく科目です。さまざまな古文の文章を読むことで、人間・社会・自然などについて、自分の考えを深めていきます。また、語句の意味・用法・文法など古文を読むための基礎的な知識を理解し古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴をとらえられるようにします。伝統的文化や言葉を大切にしながら、生活様式や、美意識、価値観を学び、その生き方を豊かに広げていく一助としていきます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> ① 自学（予習・復習など）できる力 ② 古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力 ③ 多様なテキスト（韻文・物語文・随筆思想・史伝など）を読解する力 ④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力 ⑤ 入試の出題形式に応じて解答できる力							
<b>【評価基準・評価項目】</b> ・古文の音読ができる。      ・古文の正確な現代語訳ができる。      ・古文の詩歌の解釈ができる。 ・作者の執筆意図を理解できる。      ・作品に描かれた思想・感情・文化を理解できる。 ・      ・古典世界と現代との関連性を見出すことができる。      ・文学史を理解できる。							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	宇治拾遺物語「児のそら寝」						
5月	宇治拾遺物語「絵仏師良秀」						
6月	伊勢物語「芥川」						
7月	伊勢物語「東下り」						
8月	伊勢物語「筒井筒」						
9月	枕草子「はしたなきもの」「九月ばかり」						
10月	枕草子「中納言参りたまひて」土佐日記「門出」						
11月	土佐日記「亡児」「帰京」						
12月	徒然草「ある人、弓射ることを習ふに」「花は盛りに」						
1月	平家物語「木曾の最期」						
2月	奥の細道「旅立ち」「立石寺」						
3月	万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 問題演習						

教科 科目	国語 言語文化（漢文）	学年	4年	単位	1単位	担当	恒住 典子
<b>【科目の概要】</b> 漢文の訓読の決まりを身につけて、音読ができるようにしていきます。語句・句法などを理解し、現代語訳や解釈・鑑賞ができるようにします。また漢文作品を読むことで、漢文の文章の特徴を知り、人間の生き方・中国の歴史・思想などについて自分の考え方を深めていきます。先人たちの価値観や考え方を学び、文化を継承していく姿勢を身に付けていきます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自学（予習・復習など）できる力</li> <li>② 古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎知識力</li> <li>③ 多様なテキスト（漢詩・物語・随筆・思想・史伝など）を読解する力</li> <li>④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力</li> <li>⑤ 出題形式に応じて解答できる力</li> </ol>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文の音読ができる。　・漢文の正確な現代語訳ができる。　・漢詩の解釈ができる。</li> <li>・登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答ができる。</li> <li>・作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解し、表現できる。</li> <li>・漢文の世界と現代との関連性を見出すことができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	訓読に親しむ						
5月	故事「漁夫之利」						
6月	故事「狐借虎威」「蛇足」						
7月	十八史略「完璧」						
8月	十八史略「完璧」						
9月	十八史略「先従隗始」						
10月	十八史略「臥薪嘗胆」						
11月	唐詩の世界						
12月	思想「論語」						
1月	文「桃下源記」						
2月	日本の漢詩						
3月	語彙、漢文句法の復習						

教科 科目	歴史総合	学年	4年	単位	2単位	担当	宮直樹
<b>【科目の概要】</b> 世界に衝撃を与えたロシアのウクライナ侵攻は先の見えない混乱の時代を予感させ、国際紛争のみならず、環境問題、人口問題、経済格差など、現在、世界にはグローバルな視点からの解決が求められる課題が山積している。問題解決には民族・宗教・ことばなど文化の違いを越えた対話と相互の文化理解が前提となる。文化は歴史に影響を受けており、また現在の課題も過去の延長線上に発生している。私たちが幸せな未来を志向するほど、歴史の学びは大切となる。今年度から新設された「歴史総合」では、歴史を遡ることで現代諸課題の起源を知り、歴史を多面的に考察することで、現代諸課題の解決方法を発見し、より良い未来をつくるための提案を提示できる力を養う。							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代史を理解するために必要な基本用語を習得する力</li> <li>・近現代史に関わる歴史資料の読解を通して歴史的事象を適切・効果的にまとめる力</li> <li>・近現代史の事象の意味・意義・特色を多面的に考える力</li> <li>・近現代史が現代社会に与えた影響を考える力</li> <li>・現代社会の特徴から近現代史の功罪を考える力</li> <li>・近現代史の功罪から現代社会の課題を発見し、解決方法を考える力</li> <li>・歴史を学ぶ意義を理解し、歴史への興味・関心を高める。</li> <li>・学習活動を通じ、自己の学習状況や学習姿勢を検証し、改善する力</li> </ul>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習した基本用語を正確に暗記し、表記できる（社A①）</li> <li>・基本用語同士の関係を図式化し、単元の学習内容について整理できる（社A②）</li> <li>・基本用語を使って、単元の学習内容について説明できる（社A③）</li> <li>・単元の学習内容を通じて、各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（社B①②）</li> <li>・各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（社B③）</li> <li>・社会問題から解決課題を発見し、学習内容を活用しながら解決策を提示できる（社C①～⑤）</li> <li>・学習過程において図版、地図、グラフ、文章等の資料を読み取ることができる（社A④）</li> <li>・学習過程において必要な情報を収集し、図版、地図、グラフ、文章等の資料として提示できる（社B④、C①～⑤）</li> <li>・学習成果を通じて、学習内容に関する習得、理解、活用状況を検証し、改善できる（社A⑤、B⑤、C⑥）</li> <li>・学習過程を通じて、世界史学習の意義を理解し、興味・関心を喚起できる（社C⑦）</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	<b>近代化と私たち</b> 1 結びつく世界						
5月	1 結びつく世界 2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界						
6月	2 近代ヨーロッパ・アメリカ世界						
7・8月	3 明治維新と日本の立憲体制						
9月	4 帝国主義の展開とアジア						
10月	4 帝国主義の展開とアジア <b>国際秩序の変化・大衆社会と私たち</b> 5 第一次世界大戦とアジア						
11月	6 経済危機と第二次世界大戦						
12月	6 経済危機と第二次世界大戦 <b>グローバル化と私たち</b> 7 戦後の国際秩序と日本の改革						
1月	7 戦後の国際秩序と日本の改革 8 冷戦と世界経済						
2月	8 冷戦と世界経済 9 グローバル化する世界						
3月	9 グローバル化する世界 10 現代の諸課題						



教科 科目	数学 数学 I	学年	4年A B組	単位	3単位	担当	脇田 祥弥 宮原 望																										
<p><b>【科目の概要】</b>          中学まで扱ってきた数を実数として体系化し、2次方程式について解の公式利用までの解法を学び、応用として図形的な分析力の定着を図る。また実数解の有無について判別式を用いて考察する。2次関数では2つの数の対応と変化の関係を関数の概念を用いて把握・表現し、具体的な事象の考察や2次不等式を解くことに活用する。図形と計量においては初めて三角比を定義し、三角形の辺や角の間に成り立つ定理を導き具体的な事象の考察や計量に活用する。またデータの分析では、様々なデータを整理・分析し、相関を読み取り考察していく。本科目では数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。数学的なものの見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用できるようにしていくことが目標である。</p>																																	
<p><b>【育成をめざす学力】</b> 数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。</p> <p>①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、<u>基礎的な知識を習得し活用できる力</u> (A)          ②色々な事象を数学的に考察して的確に<u>情報を取り出す力</u> (C)、<u>取り出した情報を表現できる力</u> (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け<u>的確に問題を解決できる力</u> (BDE)・<u>表現できる力</u> (F)          ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ<u>論理的に考える力</u> (D)          ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に<u>活用する力</u> (G)</p>																																	
<p><b>【評価基準・評価項目】</b> (下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか)</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p>○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。            ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p> </td> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p>○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p> </td> <td style="width:33%; vertical-align: top;"> <p>○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判ようとしていたりしている。            ○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。</p> </td> </tr> </table>								<p>○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。            ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	<p>○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判ようとしていたりしている。            ○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。</p>																							
<p>○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。            ○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	<p>○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判ようとしていたりしている。            ○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。</p>																															
<p><b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;">4・5月</td> <td style="width:15%;">数 I</td> <td style="width:75%;">           第1章：数と式                第1節 式の計算      第2節 実数         </td> </tr> <tr> <td>6・7月</td> <td>数 I</td> <td>           第3節 1次不等式            第2章： 集合と命題         </td> </tr> <tr> <td>8月</td> <td>数 I</td> <td>           第3章：2次関数                第1節 2次関数とグラフ                第2節 2次関数の値の変化                第3節 2次方程式と2次不等式         </td> </tr> <tr> <td>9月</td> <td>数 I</td> <td>第3節 2次方程式と2次不等式</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td rowspan="3">数 I</td> <td rowspan="3">           第4章： 図形と計量                第1節 三角比                第2節 三角比への応用         </td> </tr> <tr> <td>11月</td> </tr> <tr> <td>12月</td> </tr> <tr> <td>1月</td> <td>数 I</td> <td>第2節 三角比への応用</td> </tr> <tr> <td>2月</td> <td>数 I</td> <td>第5章：データの分析</td> </tr> <tr> <td>3月</td> <td>数 II</td> <td>第1章：式と証明</td> </tr> </table>								4・5月	数 I	第1章：数と式 第1節 式の計算      第2節 実数	6・7月	数 I	第3節 1次不等式 第2章： 集合と命題	8月	数 I	第3章：2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式	9月	数 I	第3節 2次方程式と2次不等式	10月	数 I	第4章： 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比への応用	11月	12月	1月	数 I	第2節 三角比への応用	2月	数 I	第5章：データの分析	3月	数 II	第1章：式と証明
4・5月	数 I	第1章：数と式 第1節 式の計算      第2節 実数																															
6・7月	数 I	第3節 1次不等式 第2章： 集合と命題																															
8月	数 I	第3章：2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値の変化 第3節 2次方程式と2次不等式																															
9月	数 I	第3節 2次方程式と2次不等式																															
10月	数 I	第4章： 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角比への応用																															
11月																																	
12月																																	
1月	数 I	第2節 三角比への応用																															
2月	数 I	第5章：データの分析																															
3月	数 II	第1章：式と証明																															

教科 科目	数学 数学 I (数 II の一部)	学年	4 年 C 組	単位	3 単位 + 1	担当	脇田 祥弥
----------	-----------------------	----	---------	----	----------	----	-------

【科目の概要】

第 1 章では最初に数を文字で置き換えた式を扱う学問である「代数学」の導入として、多項式の積や因数分解など、「式の算術」を学ぶ。次に、中学校までは漠然と捉えていた「数」を自然数⇒整数⇒有理数⇒無理数と分類し「実数」として体系化し、更にこれを「数直線」として「幾何的」(図形的)に捉えさせ、これらをもとにした方程式や不等式の解法を学んで「代数学」の入り口とする。また集合論を土台として、20 世紀に生まれて発展した論理学(特に記号論理学)の考え方の入り口を学ぶ。第 2 章では、特に関数を扱う「解析学」の導入として「2 次関数」を学び、「数直線」を発展させた「座標平面」と「グラフ」を導入し、方程式や不等式を関数の立場から捉えて「解析幾何」の入り口とする。第 3 章では、図形の解析的な捉え方の導入として「三角比」をその手段として学び、「正弦定理」「余弦定理」などを用いて主に平面図形の「代数的」「解析的」な分析を体験する。更に、ごく初等的ではあるが、平面図形にとどまらず、立体の体積や表面積を解析的に捉えることを学ぶ。第 4 章では、データの分析について学ぶ。以上のようなことから、本科目では初等数学の導入とし、数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大 2 次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

- ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を習得し活用できる力 (A)
- ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力 (C)、取り出した情報を表現できる力 (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力 (BDE)・表現できる力 (F)
- ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力 (D)
- ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力 (G)

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか)

<p>○数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	<p>○命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判ようとしていたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。</p>
---	---	--

【年間指導単元・内容と学習活動】

4・5月	数 I	第 1 章：数と式 第 1 節 式の計算 第 2 節 実数
6月	数 I	第 3 節 1 次不等式
7月		第 2 章：集合と命題
8・9月	数 I	第 3 章：2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ 第 2 節 2 次関数の値の変化 第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式
10・11・12月	数 I	第 4 章：図形と計量 第 1 節 三角比 第 2 節 三角形への応用
1月	数 I	第 4 章：図形と計量 第 2 節 三角形への応用
2月	数 I II	第 5 章：データの分析 第 1 章：式と証明
3月	数 II	第 2 章：複素数と方程式の解

教科 科目	数学 数学A	学年	4年AB組	単位	2単位	担当	宮原 望 篠崎 裕昭
----------	-----------	----	-------	----	-----	----	---------------

【科目の概要】

1章「場合の数と確率」では、図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し統合的にとらえることや具体的な事象の考察などを通して順列・組み合わせについて理解し、不確定な事象を数学的にとらえることの有用性を認識するとともに事象を数学的に考察し、処理できるようにする。3章「整数の性質」では、既習事項から新たな性質を見つけ出す過程を通して、発見や創造の仕方を学び、それらが活用できるようにする。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

- ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を習得し活用できる力 (A)
- ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力 (C)、取り出した情報を表現できる力 (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力 (BDE)・表現できる力 (F)
- ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力 (D)
- ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力 (G)

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することができるか)

<p>○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○数学と人間の活動の関係について認識を深めている。</p> <p>○事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	<p>○図形の構成要素間に関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確定な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判ようとしていたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。</p>
---	--	--

【年間指導単元・内容と学習活動】

4月 5月	数学A	準備 集合 第1章：場合の数と確率 第1節 場合の数
6月	数学A	第2節 確率
7月	数学A	第2節 確率
8月	数学A	第2節 確率
9月 10月	数学A	第2節 確率 第2章：図形の性質 第1節 平面図形
11月	数学A	第1節 平面図形 第2節 空間図形
12月	数学A	第3章：数学と人間の活動
1月	数学A	第3章：数学と人間の活動
2月	数学A	第3章：数学と人間の活動
3月	数学II	第1章：式と証明

教科 科目	数学 数学A (数Ⅱの一部)	学年	4年C組	単位	2単位	担当	脇田 祥弥
----------	-------------------	----	------	----	-----	----	-------

【科目の概要】

第1章の「場合の数と確率」では、まず、20世紀に生まれた「集合」の概念の導入を行う。次に、物の配列や組合せを体系的に教えあげることを選び、「集合」と「教え上げ」の2つを融合し「初等確率論」の入り口を学ぶ。第2章では、ユークリッド幾何学に見られる伝統的な「平面幾何」の入り口を学ぶ。以上のようなことから、数学Ⅰが代数学・解析学の導入であるのに対し、本科目では古代ギリシャ時代からの伝統を強く残す「平面幾何」、20世紀に生まれた「集合とそれに基づく記号論理学」、17世紀に生まれた「教え上げ」を行う「計算数学」、現代的な「確率論」の導入、また第3章では「初等整数論」といった、数Ⅰでは扱わない「数学」の大きな分野の導入の補填を行う。従って、本科目も初等数学の導入として、数学における基礎的な知識・技能の習熟を図り、それらを問題解決の場面で的確に活用する能力を伸ばしていく。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大2次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

- ①基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を習得し活用できる力 (A)
- ②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力 (C)、取り出した情報を表現できる力 (C)、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け問題に解決できる力 (BDE)・表現できる力 (F)
- ③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力 (D)
- ④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力 (G)

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し、覚えて、活用することが出来るか)

<p>○図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。</p> <p>○数学と人間の活動の関係について認識を深めている。</p> <p>○事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。</p>	<p>○図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。</p>	<p>○数学のよさを認識し数学を活用しようたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしていたりしている。</p> <p>○問題解決の過程を振り返って考察を深り、評価・改善したりしようとしている。</p>
---	--	--

【年間指導単元・内容と学習活動】

4・5月	数A	準備 集合 第1章：場合の数と確率 第1節 場合の数
6・7月	数A	第2節 確率
8月	数A	第2節 確率
9月	数A	第1節 確率
10月		第2章：図形の性質 第1節 平面図形
11月	数A	第1節平面図形 第2節 空間図形
12月		第3章：数学と人間の活動
1月	数A	第3章：数学と人間の活動
2月	数Ⅱ	第1章：式と証明
3月	数Ⅱ	第2章：複素数と方程式の解

教科 科目	化学基礎	学年	4年	単位	2単位	担当	山内 かな子 挟間田 一誠
<b>【科目の概要】</b> 化学基礎では、化学の基本的な概念や原理・法則を理解するために、物質の構成・物質と化学結合・物質の変化を学びます。実験・観察を通して、化学的に探究する方法を身に付けます。それらの学びを日常生活に関連させ化学への関心を高めていきましょう。そして、化学が未来に向けて何ができるかを考えていきます。							
<b>【育成をめざす学力】</b> (1) 化学を日常生活や社会と関連させ、興味関心をもって学習する姿勢 (2) 基本的な概念や原理・法則を理解して、化学的な見方を身に付ける (3) 文章、グラフ、図、表を読み取る力 (4) 自身の考えを、文章や図を使って適切に表現する力 (5) 共同学習において、他者と目的に向かって協力する姿勢 (6) 安全に注意して実験観察を行い、実験技能を習得する							
<b>【評価基準・評価項目】</b> (1) 化学を日常生活や社会と関連させ、興味関心をもって学習できる (2) 基本的な概念や原理・法則を理解して、化学的な見方をすることができる (3) 文章、グラフ、図、表を読み取ることができる (4) 自身の考えを、文章や図を使って適切に表現することができる (5) 共同学習において、他者と目的に向かって協力することができる (6) 安全に注意して実験観察を行い、実験技能を習得する							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	序章 化学と人間生活 1章 物質の構成 1節 物質の探究						
5月	1節 物質の探究						
6月	2節 物質の構成粒子						
7月	2章 物質と化学結合 1節 イオン結合						
8月	2節 共有結合と分子間力						
9月	3節 金属結合            4節 化学結合と物質						
10月	3章 物質の変化 1節 物質と化学反応式						
11月	2節 酸と塩基						
12月	2節 酸と塩基						
1月	3節 酸化還元反応						
2月	3節 酸化還元反応						
3月	探究活動						

教 科 科 目	生物基礎	学年	4 年	単位	2 単位	担当	岩永 和美 廣田 裕枝 山内 かな子
------------	------	----	-----	----	------	----	--------------------------

【科目の概要】

生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎の授業の中で、基礎的な知識、根本的原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずで。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。

【育成をめざす学力】

- (1) 興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。
- (2) 自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。
- (3) 学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。
- (4) 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。
- (5) 根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。

【評価基準・評価項目】

- (1) 授業で学習した内容を正しく理解し、これまでの学習内容や身の回りの自然現象との関連付けができる。
- (2) 基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。自然や生命を尊重する姿勢をもっている。
- (3) 最新の技術や研究成果について理解を示すことができる。知識や自分の考えを文章で的確に表現することができる。
- (4) 現在および将来における科学の課題と人間生活のかかわりを考えることができる。
- (5) 実験データなどをグラフ化したものなどから規則性を読み取ることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

4 月	第 1 編 生物と遺伝子	第 1 章 生物の特徴	
5 月		第 1 章 生物の特徴	
6 月		第 2 章 遺伝子とその働き	
7 月		第 2 章 遺伝子とその働き	
8 月	第 2 編 生物の体内環境の維持	第 3 章 生物の体内環境	
9 月		第 3 章 生物の体内環境	
10 月		第 3 章 生物の体内環境	
11 月	第 3 編 生物の多様性と生態系	第 4 章 植生の多様性と分布	
12 月		第 4 章 植生の多様性と分布	
1 月		第 4 章 植生の多様性と分布	第 5 章 生態系とその保全
2 月		第 5 章 生態系とその保全	
3 月		第 5 章 生態系とその保全	

教科 科目	音楽 I	学年	4 年	単位	2 単位	担当	佐野 智江
<b>【科目の概要】</b> <p>皆さんは小学校で6年間、中学校で3年間、計9年間音楽を受講してきたと思います。そして、これが10年目の音楽の授業となるわけですが、全員必修科目としての音楽の授業は今年度で最後です。そこで、本科目ではまず、日常生活の中において音楽と関わる中で必要と思われる基礎知識を学びます。さらに、様々なジャンルの音楽を紹介することで、個人のもつ音楽の受け皿を大きくし、音楽を愛好する心を育てます。</p>							
<b>【育成をめざす学力】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を学ぶ上で必要な基礎知識の習得。</li> <li>・音楽を愛好する心の育成。</li> </ul>							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味、関心を持って授業に参加できる。</li> <li>・大きな声でのびのびと歌唱表現できる。</li> <li>・音楽を学ぶ上での基礎知識を理解することができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	音名、拍子について 讃美歌について 中学校既習曲（歌唱）の復習						
5月	日本のポピュラー音楽の歴史について 創作活動						
6月	西洋音楽史 古代ギリシャ〜ルネサンス（鑑賞：グレゴリオ聖歌） 日本の歌曲について「夏の思い出」「この道」「椰子の実」 日本の歌曲の歴史について 実技テスト 期末考査						
7～8月	讃美歌コンクールにむけて						
9月	讃美歌コンクールにむけて 世界の歌に親しむ 「アニー・ローリー」「おおシャンゼリゼ」「O sole mio」						
10月	ドイツ歌曲について 「Heidenröslein」 西洋音楽史 バロック〜古典派 （鑑賞：バッハ作曲「フーガ ト短調」、モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」ほか）						
11～ 12月	クリスマス礼拝に向けて「ハレルヤコーラス」 クリスマスの讃美歌について 実技テスト 期末考査 創作活動						
1月	イタリア歌曲について 「Caro mio ben」 西洋音楽史 ロマン派〜現代の音楽（鑑賞：ショパン作曲「英雄ポロネーズ」ほか）						
2月	音程について 実技テスト 学年末考査						
3月	音楽基礎知識の総復習						

教科 科目	保健体育 保健	学年	4年	単位	1単位	担当	猪 寛子
<b>【科目の概要】</b> わが国の疾病構造や社会の変化に対応し、健康を保持するためには、ヘルスプロモーションにたいする考え方を生かして健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりを行うことが重要であることを理解し、4学年では、思春期から高齢者まで生涯の各段階における健康課題への対応と保健医療体制や地域の保健・医療機関の適切な活用および環境と食品の保健、労働と健康など社会生活における健康の増進について個人生活のみならず社会生活とのかかわりを含めた総合的な理解を深める。							
<b>【育成をめざす学力】</b> 個人および社会生活における健康・安全について理解。生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための能力の育成。							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の健康を理解し、実生活で活用できる。</li> <li>・ 専門的な知識を身につけ、社会生活に役立てることができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4・5月	1.オリエンテーション、安全教育						
6月	2. 生涯を通じる健康 ①思春期と健康 ②性意識と性行動の選択③結婚生活と健康						
7月	④妊娠、・出産と健康 ⑤家族計画と人工妊娠中絶 1 学期期末考査（評価）						
8月	⑥加齢と健康						
9月	⑦高齢者のための社会的とりくみ ⑧保健制度と医療費						
10月	⑨保険制度と保健サービスの活用						
11月	3.社会生活と健康 ①大気汚染と健康 ②水質汚濁と健康						
12月	③土壌汚染と健康 ④健康被害の防止と環境対策 2 学期期末考査（評価）						
1月	⑤環境衛生活動のしくみと働き						
2月	⑥働くことと健康						
3月	⑦労働災害・職業病と健康 ⑧健康的な職業生活 学年末考査（評価）						

教科 科目	保健体育 体育	学年	4年	単位	2単位	担当	潮下竜二
<b>【科目の概要】</b> 近年、都市化や生活の利便性による日常生活の体を動かす機会や場所の減少、少子化・高齢化の急激な進展、自由時間の増大等の社会変化など国民意識や価値観の変化の中で、心身ともに健全な生活を営む上で運動やスポーツは不可欠なものになっている。このような運動やスポーツの意義を踏まえると、4学年は高校生活最初の大切な時期に、授業を通して、運動スポーツの楽しさ、喜びを体験できるようにすることが求められた生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うようにする。							
<b>【育成をめざす学力】</b> 互いに協力して練習や競技が出来るようにするとともに、勝敗についても公正な態度がとれ、健康・安全面に留意して行動できる能力を養うようにする。							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団での行動と規律を守り、実生活や学校生活に生かすことができる。</li> <li>・ 基礎的技術の習得とゲームができる。</li> <li>・ 個人の基礎体力の向上と運動能力を高めることができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4・5月	1. 体育実技の受け方のオリエンテーション・安全教育 ①オリエンテーション 集団行動（ラジオ体操含む）						
6月	2. 体づくり運動 ①体力テスト（握力・上体そらし・長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅跳び・ボール投げ） ②トレーニング実践（体幹トレーニング・自重トレーニング・サーキットトレーニング・ コーディネーショントレーニング・リズムジャンプトレーニング） ③分析						
7月	④評価						
8月	3. ソフトバレーボール ①オリエンテーション・安全教育②パス、サーブ						
9月	③評価						
10月	⑥ルール説明および審判法						
11月	⑦ゲーム						
12月	4. 持久走						
1月	①シャトルラン等						
2月	②時間走						
3月	③駅伝大会						

教科 科目	情報 I	学年	4 年	単位	2 単位	担当	高崎 和子
<b>【科目の概要】</b> 情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。							
<b>【育成をめざす学力】</b> 他の教科等の学びとあわせて、Society 5.0 に向けて大きく変化する社会で生きていくための資質・能力を育むものであること。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めようとする力。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画していく力。							
<b>【評価基準・評価項目】</b> ・効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。 ・事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 ・情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4 月～ 9 月	オリエンテーション 第 1 章 情報社会と私たち (1 情報社会 2 情報社会の法規と権利 3 情報技術が築く新しい社会 ) 第 2 章 メディアと情報デザイン (1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践 ) 第 3 章 システムとデジタル化 (1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化 )						
10 月～ 12 月	第 4 章 ネットワークとセキュリティ (1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ ) 第 5 章 問題解決とその方法 (1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション)						
1 月～ 3 月	第 6 章 アルゴリズムとプログラミング (1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践 )						

教科 科目	英語 コミュニケーション英語 I 論理表現 I	学年	4 年	単位	6 単位	担当	宇高かれん・千葉敦子 加瀬由佳・ポール
----------	-------------------------------	----	-----	----	------	----	------------------------

【科目の概要】英語の4技能である Reading・Listening・Speaking・Writing の力をバランスよく育成することを目指します。コミュニケーション英語 I 4 単位、論理表現 I 2 単位として取り扱います。教科内で上手く連携を図り、できるだけ1つの流れで授業を進めていきます。教科書で読んだり聞いたりして理解したことをもとに、自分の考えを英語で話したり書いたりする活動を行います。特に英語でスピーチをする力をつけていきます。積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢をもつだけでなく、さまざまな問題に疑問を持ち考える姿勢を大切にしてください。

【育成をめざす学力】

Reading 速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力  
テキストを分析的・批判的に読む力

Listening 目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力

Speaking / Writing 与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力

【評価基準・評価項目】

Speaking：日常的な話題について、ネイティブスピーカーと対話できる。(英検準2級レベル) / 自分自身や身近な話題について、2～3分間のスピーチを即興ですることができる。

Writing：パラグラフ構成を意識して、社会問題について自分の意見を100語以上で書くことができる。  
ディスコースマーカーとパラグラフ構成を理解しながら、論理的展開を把握することができる。

Reading：まとまった量の英文を読んで大筋を理解し日本語で要約を完成させることができる。多読教材を全員が1年間に最低15冊読む。

Listening：英検準2級レベルの問題を聞いて理解することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

4 月	リエンション・辞書・発音記号指導	高校英語基礎	AAA Conversation
5 月	Lesson 1 ～ 2	文・文型	↓
6 月	Lesson 3 ～ 4	動詞の時制	Speech Presentation 1
7 月	Lesson 4	助動詞	↓
8 月	Lesson 5	態	Speech Presentation 2
9 月	Lesson 5	不定詞	
10 月	Lesson 6	動名詞	
11 月	Lesson 7 ～ 8	分詞	
12 月	Lesson 8	関係詞	
1 月	Lesson 9	比較	
2 月	Lesson 10	仮定法	↓
3 月	まとめ	品詞など	Speech Contest

教科 科目	聖書	学 年	4年	単 位	1単位	担 当	塩屋 優子
<b>【科目の概要】</b> 今日の私たちが生きている社会，自分との関わりの中で，イエスの生涯とその背景を学ぶ。							
<b>【育成をめざす学力】</b> A. 聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。 B. 知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。 C. 知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。							
<b>【評価基準・評価項目】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聖書の時代的・地理的背景が理解できる。</li> <li>・ イエスの生涯の概略とその教えの内容を把握できる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
4月	自己と自己確認の旅の理解						
5月	ベストセラーとしての聖書 イスラエル民族の歴史としての旧約聖書						
6月	新しい救いの約束としての新約聖書 パレスチナの風土						
7月	誕生の地ベツレヘム						
8月	マリアへの誕生の知らせ						
9月	イエスの誕生の状況						
10月	ヘロデ王の支配 ローマの支配						
11月	洗礼者ヨハネの活動						
12月	荒野の誘惑 弟子の選び						
1月	山上の教え タラントのたとえ						
2月	イエスと富める青年との出会い 愚かな金持ち ペトロの告白						
3月	十字架と復活						

教科 科目	インテグレーション4	学 年	4年	単 位	1単位	担 当	4学年教師
<p><b>【科目の概要】</b></p> <p>4 学年では、「自分を知り、改善できる生徒の育成」という学年目標のもと、様々な行事や活動を通して、自己を深く見つめ、新たな興味関心を見出し、自分の将来に向けて考える力を身につけていきます。論理コミュニケーション授業、コラム学習、また学年行事「A I E 研修」を通して、情報収集・分析力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力（文章を書いたり、プレゼンテーションしたりする力）を育成していきます。</p>							
<p><b>【育成をめざす学力】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の研究課題の発見と情報を収集・分析できる力</li> <li>・テーマに関する興味・関心と基本的な知識を身につける力</li> <li>・レポート発表のための文章表現力やプレゼンテーションする力</li> <li>・根拠を明確にし、説得力のあるスピーチをする力（論理的思考力）</li> <li>・研究活動に対して、自己評価や相互評価ができる力</li> </ul>							
<p><b>【評価基準・評価項目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで協力し、ブレインストーミングやマインドマッピングなどの学習スキルを活用して課題に取り組み、考えを深めることができる。</li> <li>・本やインターネットなどから必要な情報を集め、根拠を明確にし、主張をわかりやすく説明することができる。</li> <li>・プレゼンテーションに向けて情報を論理的に考察し、わかりやすい資料を作成することができる。</li> <li>・指示を正しく理解し、適切な言葉で文章表現をすることができる。</li> <li>・自分や他者の成果内容を正しく評価し、それを受け入れ、改善することができる。</li> </ul>							
<b>【年間指導単元・内容と学習活動】</b>							
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理コミュニケーション</li> <li>・ コラム学習</li> <li>・ 進路について考える～文理選択研究、職業調べ など</li> </ul>						
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理コミュニケーション</li> <li>・ コラム学習</li> <li>・ 学部学科調べ学習～発表</li> <li>・ 将来について考える～My Dream 原稿作成</li> <li>・ A I E 研修</li> </ul>						
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理コミュニケーション</li> <li>・ コラム学習</li> <li>・ 将来について考える～My Dream 原稿作成～完成、発表</li> </ul>						